

# ダニエル・カールの

# 消防団 たずねあるき

第1回 愛知県東海市

## はじめに

今回からは「消防団たずねあるき」ということで、装いを新たにして、各地の消防団についてのお話を中心にお送りします。

今回、たずねたのは愛知県の東海市消防団です。

2月初旬、朝早く新幹線で東京から名古屋に向かいました。そこから名古屋鉄道を乗り継ぎ名鉄太田川駅で下車し東海市に着きました。

東海市は、1969年（昭和44年）4月1日に、愛知県23番目の市として誕生したそうです。

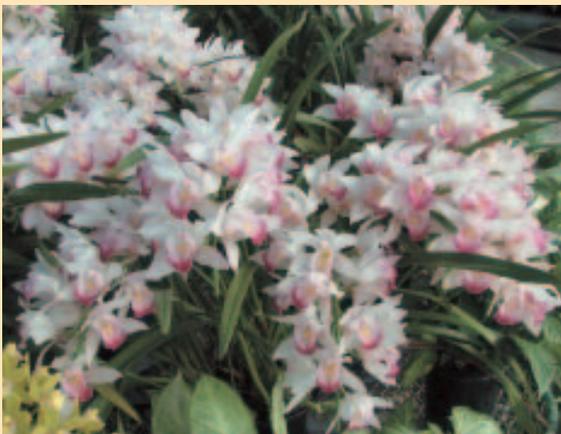
地理的には、風光明媚な知多半島の西北端に位置し、西側が伊勢湾に面しています。圏内に

中部国際空港（セントレア）があり、アジアを中心として北米・ヨーロッパなどを結んでいます。面積は、43.36km<sup>2</sup>、人口は、平成21年1月1日現在（住基人口）107,832人が生活しています。

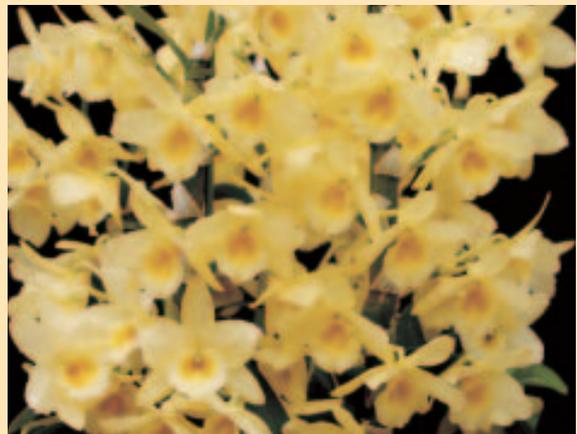
中部圏最大の鉄鋼基地をもち、産業上の拠点基地としての役割を果たしています。また、近年は中部国際空港の開港や伊勢湾岸道路の完成により、物流拠点としても注目を集めています。

一方で、東海市は愛知県内有数の洋ランの生産量を誇っており、地元の農業センターでは、デンドロビウム・シンビジウムの新品種の開発に取り組み、新しい洋ランを栽培しているそうです。

それと、意外と知られていませんが、東海市は「フキ」の生産量が全国一だということです。



シンビジウム（サロンド・トーカイ）



デンドロビウム（ヘイシュウ）



東海市消防本部にて（左から、井上分団長、（ダニエル）、梅森団員、山根団員）

## 東海市の消防

東海市の消防組織について、お話しいたします。

常備消防は、1消防本部。消防署、2出張所、消防職員119人からなっており、非常備である消防団は、消防団数1団、8分団、消防団員数198人（女性団員10人を含む）から組織されているそうです。

皆さんもご存知のとおり、消防団員は、昭和20年代後半には約200万人もいましたが、平成20年4月1日現在では、すでに90万人を割ってしまったのです。しかし幸いにも、東海市においては、消防団員の定数（198名）が確保されているそうです。

まず、東海市消防本部におじゃましました。消防署長、分団長、女性消防団員をはじめとする方々にお出迎えをいただき、さっそくお話を

うかがいました。

**ダニエル** 東海市はどんな町なのですか。

**小笠原署長** ここ東海市は「鉄と蘭」というキャッチフレーズでスタートしました。

鉄鋼関係の工場があり、蘭の生産は県内で2位なのです。農業センターで独自の蘭を作っています。

今、市の花は「さつき」なのですが、4月からは「洋ラン」も追加されます。

**ダニエル** 私もこちらに来ますと、よく蘭のお話をお聞きします。

**小笠原署長** 地元の生産農家も改良を加えています。

**ダニエル** そう言えば、以前、送っていただいたことがありました。今でも飾っています。東海市の方は花を育てるのがお好きなのですか。

**小笠原署長** 緑は結構多いと思います。工場地帯がありますので、それと分離するために緑

# 消防団たずねあるき

を多くしようという取り組みがあります。

**ダニエル** 市内の住宅を拝見しても、皆さん庭に花を植えていらっしゃる、緑を大切にしておられると思います。そのせいか、都会なのですが、ちょっと山形っぽい雰囲気があります。(笑)

**小笠原署長** 愛知用水ができてから工業化が進んだ町なのです。それ以前は溜め池で農業中心の町でした。臨海部は工業地帯ですが内陸部はもともと農業中心です。

**ダニエル** 農業があって工業があって住宅地があってと盛りだくさんの町づくりですね。

**小笠原署長** そうですね。

## 東海市の消防団

消防署長の小笠原さんは、なかなかお話が上手で、また、地元のことにとても詳しい方でした。細井平州やオラの地元の山形県米沢市と姉妹都市であることなど、いろいろと面白いお話を伺ったのですが、そろそろ本題に入ります。

**ダニエル** 東海市の消防団について教えてください。

**小笠原署長** 定員、実員とも198名の消防団員がおりまして、市内に1本部8分団があります。

また、女性消防団員が団本部付けで10名います。平成18年4月1日に結成されまして、女性消防団の結成は県下で10番目くらいだったと思います。全国的に消防団員の減少が問題とされている中で、団員数を確保する意味もあり結成に至りました。

**ダニエル** 女性消防団員はどのような活動をしているのですか。

**小笠原署長** 女性消防団員は、高齢者宅の防火訪問などで活躍しています。年間を通すと応急手当の講習や防火指導などでかなりの出勤があります。応急手当指導員の資格を全員が持っていて、実際に地域の方々に応急手当の方法などを教えています。我々がなかなか行えないことをフォローしてもらっています。

また、救急車が到着するまでに、心肺蘇生法を行えば救命率が上がるということで、それに協力してもらう市民を増やすことに取り組んでいます。その取り組みにおいても、女性消防団員が指導者として活躍しています。

**ダニエル** 消防団員の条例定数198名を確保しておられますが、全国的にも珍しいのではないのでしょうか。

**小笠原署長** そうですね、それと平均年齢も約28歳と若い消防団です。

**ダニエル** 団員数や若者を確保するために何か工夫されていることはありますか。

**小笠原署長** 当市消防団の第5分団や第7分団の管轄地域を中心に祭が行われるのですが、その祭に参加するメンバーが消防団員になってくれるという伝統があります。そんなこともあって、地域によって差はありますが、全体的には100%の充足率を達成できています。

**ダニエル** そのお祭は、なんというお祭ですか。

**小笠原署長** 「尾張横須賀まつり」と「大田まつり」といいます。

**ダニエル** どんなお祭ですか。

**小笠原署長** 山車がたくさん出るお祭です。なかなかのものですよ。

それと、当市の消防団員は消防団を退職すると「防火協力会」という消防団のOB組織に移行します。

## 消防団たずねあるき



小笠原消防署長（手前右）

最近、昼間部の消防力確保等のため「機能別消防団」を結成しているといった話をお聞きしますが、東海市は平成3年から「防火協力会」という組織を作って、消防団と連携することで、そういったことに備えてきました。

**ダニエル** 「防火協力会」というのは、消防団のOBで消防団の活動を助けるというものですか。

**小笠原署長** もちろん、消防団への支援活動を行います。また、地域の防災資機材の取り扱いをしたり、市で行っている総合防災訓練での一般の住民に対する指導も行います。

**ダニエル** 消防団に入る前はお祭で、消防団を退職した後は「防火協力会」と、いい流れでつながっていますね。

ところで、そちらは分団長さんですね。

**井上分団長** はい。

**ダニエル** ずいぶんお若い分団長さんですね。

**井上分団長** 私は、東海市ではむしろ年齢が高い分団長です。

**ダニエル** 失礼ですが、おいくつですか。

**井上分団長** 32歳です。当市には20歳代の分団長もいます。

**ダニエル** それは頼もしいですね。

**井上分団長** そうですね。ただ、署長のお話にあった、お祭の会に入ってくる若い人が、最近、減少傾向にあります。これから少子化が進むと消防団員の確保も難しくなるかもしれません。

**小笠原署長** 祭の会に女性を入れているのはそういうことに備える意味もあるのですかね。

**ダニエル** 以前、友人と一緒にお祭に参加してお神輿を担いだことがあります。オラも友人もそれほど背が高いわけではないのですが、日本人の方と比べてたぶん2cmくらい高かったのだと思います。でも、お神輿を担ぐときには2cm高いことでお神輿の重さがのしかかってきます（笑）。お祭が終わった時にはもう大変でした。

**井上分団長** こちらのお祭では山車を引っ張るのですが、方向転換をすることを「どんでん」と

## 消防団たずねあるき

いいまして、その時には山車を担ぐ形になります。

**ダニエル** その時は重たいですか。

**井上分団長** とても重いです。4人単位で担いで持ち上げるのですが、1人100kg以上の重さがかかります。消防団と同じで20歳代の人を中心にやっています。

**ダニエル** そういうお祭があって、若い消防団があるわけですね。

**小笠原署長** そうですね。「若衆兼消防団」といったところでしょうか。

**ダニエル** お祭でその人の力を計って消防団員としてスカウトすると…（笑）

消防団員になるためのテストですかね…（笑）  
消防団にはどんな職業の方が多くですか。

**小笠原署長** 今はサラリーマンが約7割を占めます。サラリーマンであっても地元の企業で働いている人が多くいます。かつては、農業の方が多かったですが、今は2割を切っていますかね。

**ダニエル** 消防団活動への理解を得るために企業に対して取り組んでいることはありますか。

**小笠原署長** 当市は県の操法大会で過去3回優勝しています。操法大会に出場する選手である団員については、企業の理解が必要不可欠ですから、消防団長がうかがってご理解をいただいています。また、消防団員の勧誘に当たっても団長がお願いに行っています。

**ダニエル** そういう努力があって、若い消防団が活躍しているわけですね。

**小笠原署長** そうです。東海市の場合は火災が起これば、消防団も第一線で消火作業にあたります。また、訓練についても、震災の訓練など消防職員と合同で行っています。平成19年度には廃止になった市の施設を活用して、建物を破壊しながら救出をするといった実戦的な訓練を実施しました。

それと、もし、大きな地震が起これば道路が分断されることが予想されますから、各分団の詰所に救助用資機材を手引きの車に乗せたものを配備しています。

消防団にはいろいろな役割があるのですね。そして大いに期待されていますね。

ここで女性消防団員の方にもお話をうかがいましょう。

**ダニエル** 消防団に入団されたきっかけを教えてください。

**山根団員** 主人が勤めている会社で防災に関係する部署にいたこともあって女性消防団の募集を知りました。私自身、もともと消防団活動に興味があったので入団することにしました。

**小笠原署長** 女性消防団員を採用するに当たっては、一般公募をしました。面接を受けていただいて、それから入団していただきました。

**ダニエル** そちらの方はいかがですか。

**梅森団員** 私の場合は、市の広報誌で女性消防団の募集を知りました。面接を受けましたが、まさか合格するとは思っていませんでした。以前から消防団の制服にはあこがれていました。

**ダニエル** 井上分団長はお祭からの流れですか。

**井上分団長** そうですね。その流れです。

**ダニエル** 女性の場合、ご家庭内のお仕事との両立が大変ではありませんか。

**山根・梅森** 主人の協力があるので大丈夫です。

**ダニエル** 消防団を取り巻く環境などで昔と変わったところがありますか。

**井上分団長** 昔は自営業の方が多く、いつも地域に居る形だったのですが、今はサラリーマンの方が多いので、急な出勤に備えることが難

## 消防団たずねあるき

しくなっています。

**ダニエル** 今までの活動で一番印象に残っているのはどんなことですか。

**井上分団長** やはり、火災現場に出動して消火活動に当たったことです。もちろん、火災はないことが一番ですが。

**ダニエル** 女性消防団員のお二人はいかがですか。

**梅森団員** 見るもの触るものすべてが新鮮で、感動しています。

**山根団員** 長く消防に携わっておられる方には当たり前なことなのでしょうが、私たちにとってはとても新鮮です。訓練で消防のホースを持つことなどはなかなか経験できません。

**ダニエル** 私も父親が消防士なのですが、子供の頃、父親の姿を見てあこがれたものです。私自身も消防士になりたかったのですが、いつの間にか山形弁研究者になってしまいました。人生っていろいろありますね（笑）

**小笠原署長** 今、こうして日本の消防団員の方にお会いになっていらっしゃるのも何かのご縁でしょう。

**ダニエル** そうですね、あちこち回って戻ってきたような感じです。

ところで、消防団には、どんな魅力がありますか。

**井上分団長** 私は32歳ですが、分団の一番若い団員が20歳です。普通の生活では、一回りも歳が離れた人と話をする機会はなかなかないと思います。そういった貴重な交流ができるのも自分が消防団員であるからこそだと思います。

**小笠原署長** 消防団の幹部の方によくお話しするのは「これからの地域の担い手はあなたたちだ」ということです。消防団員として活動する中で、地元のこと地域のことをよく知ってい

ただいて、その後の町内会での活動などに生かしていただきたいと思います。

例えば、操法大会になると、かつて選手だった方たちが協力してくれます。年齢的には、井上分団長のご両親ぐらいの年代の方々です。そういう形でのコミュニケーションが生まれてくるのも消防団のよい所です。

**ダニエル** 日本の方は年齢の離れた方とフランクに話をすることがあまり無いように感じます。同じ職場であっても先輩も後輩もそれぞれに気を使っているのでしょうか。その点、消防団員の方は同じ目的で活動していて、仕事も年齢もいろいろですからフランクに話すことができるのですね。

**井上分団長** 消防団は地域の町内会の方との交流が多く、自分の年齢と離れた方とお話しする機会も多くあります。都会では同じマンションに住んでいても「隣はなにをするぞ」というところもあるようですが、東海市では分団が管轄する町内のことは大体把握できています。

とても生き生きとした消防団ですね。お話ししていても、いい雰囲気です。何よりも、団員さんがやりがいや魅力を感じていることが素晴らしいですね。

**ダニエル** こちらの消防団の活動で特筆すべきことはありますか。

**小笠原署長** かつては伊勢湾台風がありました。最近では平成12年の東海豪雨ですね。ゲリラ豪雨的な雨が降り、同じ市内でも地域によって雨の降り方が違うので対応が難しかったです。あの時は消防団が大活躍でした。

**ダニエル** 地震はどうですか。

**小笠原署長** 東海市は東海地震、東南海地震

# 消防団たずねあるき

の危険地域になっています。二つが重なって起こると、このあたりは液状化現象が起こる可能性が高いとされています。市内にはまだ古い建物もありますので、地震が起こると建物の倒壊や火災が心配されます。

**ダニエル** いろいろと大変ですね。

**小笠原署長** 人口10万の市ですが、高速道路が走っていて、コンビニナートがあって農業地帯もあるので、さまざまな危険要因があります。したがって、いろいろな災害に対応する必要があります。

**ダニエル** そうですか。たくさんやるのがあって大変でしょうけれども、消防署と消防団、力を合わせてがんばってください。

ここで、話は一区切りです。今度は分団詰所を見に行きます。ちょっと変わった形の建物だそうで、とても楽しみです。消防本部から自動車10分とかからない場所に目指す第5分団の詰所がありました。

なんかどっかで見たような形です。

**ダニエル** 形が何かに似ていますね。

**小笠原署長** そうです。消防と縁の深いものに似ています。これは、火の見やぐらに似せています。

**ダニエル** なるほど、火の見やぐらですか。半鐘もあるのですか。

**小笠原署長** 半鐘はありません。この建物の半鐘をつるべき場所には、サイレンの吹鳴装置がつけてあります。

**ダニエル** 近代的な火の見やぐらですね。いつごろ建てられたのですか。

**小笠原署長** 平成20年の8月です。それまでの詰所が老朽化したことや区画整理が行われた

ことで新築することになりました。外観を火の見やぐら風にしてるのは景観に配慮してのことです。他にも、日本建築風の詰所など景観に配慮したものがあります。

**ダニエル** 消防団員の皆さんの評判はいかがですか。

**小笠原署長** 新しく機能的だと、評判は上々です。

もっといろいろな詰所も見てみたかったのですが、残念ながら時間がありませんでした。見せていただいた第5分団の詰所は、公民館と並んで建てられていて、このことから消防団が地域に溶け込んでいるなど感じました。

## 細井平州と上杉治憲（鷹山）

東海市とオラの地元の米沢市の関係についても触れたいと思います。

その関係とは、細井平州と上杉治憲（鷹山）のことです。

細井平州は、江戸時代の学者であり、政治や教育に大きな影響を与えたそうで、東海市のキャラクターである「へいしゅうくん」のモデルにもなっているそうです。

上杉治憲（鷹山）はかつての米沢藩主で、現在、NHKテレビで放映されている「天地人」などで皆さんもご存知だと思います。

消防署長もお話しされていましたが、細井平州は米沢藩の上杉治憲（鷹山）の師としても有名なのです。これが縁で、東海市と米沢市は姉妹都市の関係にあるのだそうです。

上杉治憲（鷹山）は米沢藩の財政を立て直した基本方針として、「自助」、「互助」、「扶助」の3助を設けたそうです。これは「自分ででき

## 消防団たずねあるき

ることは自分です」、「お互いに助け合う」といったことでしょう。災害に備える場合にも役立つ考え方だと思います。細井平州の師としての教えは確かなものだったのですね。

### 終わりに

今回お訪ねした東海市は、過去に台風や豪雨の被害を受けたことや、国が指定している大規模地震対策特別強化地域にもなっていることから、消防は日頃から火災や風水害や地震などさまざまな災害に備えているのです。

また、お祭などの活発な地域コミュニティー活動も地域防災に役立つことだと思います。日ごろから地域のみんなで何かの活動することは、いざというときに地域の中で助け合うために、きっとプラスになるでしょう。

そして何よりも、地域の中にいて、地域の防災を支えている東海市消防団の皆さん、これからも市民の安全と安心を守るために、がんばってください！

ダニエル・カール：（Daniel Kahl）1960年米国生まれ。高校時代に交換留学生として奈良県の智弁学園に1年間、大学生時代には関西外国語大学に4か月間留学。大卒後、文部省（当時）英語指導主事助手として山形県に赴任し、3年間英語教育に携わった。現在、翻訳通訳サービス会社社長。山形弁にたんなるマルチ・タレントとしても活躍中。財団法人日本消防協会が組織する「消防応援団」の一人でもあり、ニッポン放送「おはようニッポン全国消防団」やNHK朝ドラマ「どんど晴れ」にも出演するなど、多方面で活躍するとともに消防団をPRしていただいている。著書多数。

